日工組通信 第75回

安全安心 パチンコホールの新型コロナウイルス対策

緊急事態宣言下、業界団体はホールに改めて新型コロナ対策の徹底を求め通知

サンシャインKYORAKU植田

新型コロナウイルスの脅威がとどまるところを知らない現在、パチンコ業界団体やパチンコホールは具体的にどのような取り組みを行っているのだろうか。また、昨年10月に行われたホールでの換気実証実験の結果についても詳報する。

たとえば、遊技台の消毒 パチンコホールならではの施策

昨年4月の緊急事態宣言下では、パチンコホールは営業自粛を要請され、全国のほぼすべてのホールが営業を自粛した。その真っただ中の5月14日、パチンコ・パチスロ産業21世紀会（パチンコ業界の13団体によって構成される組織で、業界の健全な発展を目指してさまざまな取り組みを行っている）は「パチンコ・パチスロ店営業における新型コロナウイルス感染症の拡大予防ガイドライン」を制定した。その後、9月3日、12月11日と二度にわたって改訂された。新型コロナウイルス対策で11都府県に二度目の緊急事態宣言が出されている現在、業界団体はホールに改めてガイドラインの徹底を求め、通知を行っている。

ホールは昨年の営業自粛明け以降、このガイドラインに従い、徹底的な感染拡大防止対策を実施している。具体的な施策の柱となるのは「対人距離の確保」と「消毒など」の2点だ。「対人距離の確保」に関しては、遊技者間（遊技中、喫煙所、トイレ、景品カウンター前、開店前等）、遊技者と従業員間のそれぞれに関して、最大限の対策を行っている。「消毒」は遊技者の来店時、遊技者が手を触れる可能性のあるあらゆる設備、従業員の衣服や体調管理等を徹底している。

パチンコホールならではの対策としては、遊技台の消毒が挙げられる。遊技客の入れ替わり時に遊技機周辺（ハンドル、台枠、データランプ、玉箱等）を従業員が消毒する光景は一般的なものとなった。店内BGMや遊技機の音量を抑える対応も目立つ。店内をできるだけ静かにし、遊技者間、遊技者と従業員間の大声での会話を防ぐためだ。また、開店前の行列を防ぐため、オンラインでの入場抽選を行うホールも増えている。

これらの具体的な取り組みはWEBサイト「パチンコ・パチスロ生活向上委員会」でも見ることができる。

パチンコ業界は、コロナウイルスの感染拡大防止のため、全力を尽くしているのだ。

パチンコ・パチスロの今を情報発信!!

WEBサイト「パチンコ・パチスロ生活向上委員会」

ホールの新型コロナウイルス対策のツイートをピックアップし紹介

日工組が運営するWEBサイト「パチンコ・パチスロ生活向上委員会」では、パチンコ業界が行っている具体的な取り組みを、常時更新している。「パチンコ業界のコロナ対策まとめ」のコーナーにおいて、主にホールの新型コロナウイルス対策のツイートをピックアップして紹介しているのだ。

たとえば今年に入っての2回目の緊急事態宣言を受けて、これまでは1日1回だったパチンコ玉の洗浄を、1日3回にすることをTV番組で報道されたホール店長（ジャパンニューアルファテームズ・山崎康太店長）が、その旨をツイート。また、抗ウイルスに効果的とされる光触媒によるコーティングを実施済み、と報告するツイートも多数ある。

この他にも、スタッフによる除菌・清掃の模様（データランプ、肘置き、遊技台のガラス面、チャンスボタン、ハンドル、ストップボタン、レバー、下皿等）、入店の際の検温・消毒設備、店内の換気や加湿について、ホール従業員の日々のコロナ対策等、さまざまなホールによる取り組みが、写真付きで一覧にまとめられている。このWEBサイトを見れば、現在パチンコ業界やホールがどれだけ新型コロナウイルス対策に力を入れているかが、ひと目でわかるはずだ。

〝ホール＝密閉空間〟を払拭する実証試験実施

換気能力の高さを目に見える形で証明

昨年10月26日、全国遊技場青年部連合会が、パチンコホール内の換気実証実験映像公開の記者発表会を行った。この実験はホール内に充満させたスモークが、10分後にどうなるかを検証したもの。映像では噴射されたスモークが徐々に排気口から排出され、10分後には遊技客スペースからはほぼなくなった。これにより、ホールの換気能力の高さが実証された形だ。

同発表会には感染症の専門家で愛知医科大学感染症科の三鴨廣繁教授、オオキ建築事務所の大木啓幹代表（一級建築士）も出席した。実験にも参加した三鴨教授は「正直言って、ビックリした。換気に関してはこれ以上ない設備を備えている。少なくとも『密閉』ということは否定できるだろう」と話した。「パチンコホールには密閉、密接、密集の3要素が揃っているという認識は、今となっては誤解で、目に見える形で実証できたことが今回の実験の最大のポイントだ」と実験の意義を強調した。

大木代表は「不特定多数の人が集まる施設では、建築基準法で『この程度の換気をしなさい』と定められている。喫煙率が非常に高かったパチンコホールでは、かなり設定の高い換気量を要求されていた。ほとんどのホールでは10分間に1回、1時間に5、6回の換気が行われる設備を備えている」とホールの換気事情について説明。

「新型コロナウイルスが感染拡大していく中で、ホールは密室だという誤った知識が世の中に蔓延してしまってはいけないと思った」と話し、イメージによる事実とは異なった情報の拡散を危惧した。

そもそもが高い換気設備を備えているのだが、現在はさらに換気頻度を上げるほか、出入り口を常時開放もしくは定期的に開放することで、さらに換気を徹底しているホールが多い。

実証実験結果や三鴨教授、大木代表の両氏の指摘からもわかるとおり、ホールが『密閉空間』ではない、ということは言えるだろう。

次回掲載は2月26日です
過去の掲載はこちらで読めますhttp://www.nikkoso.jp